

LMS の全学的な導入とその活性化の原因分析

西谷滋人・関西学院大学高等教育推進センター
 内田啓太郎・関西学院大学高等教育推進センター
 連絡先
 〒 662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155
 Tel:0798-54-7420/Fax:0798-54-7421
 e-mail:nishitani@kwansei.ac.jp

1 はじめに

関西学院大学では、Blackboard 社の Blackboard LearnR9.1 を関学にあわせてカスタマイズした LUNA という LMS システムを 2010 年 9 月より供用開始している。導入検討は 2008 年から始まり、同年度に策定された関西学院「新基本構想」を実現するために、2009 年度からの新中期計画で導入が決定された。これは、「垣根なき学びと探求の共同体 (Learning Community) の実現」という KG 学士力の目標実践をサポートする強力なツールとして期待されたからである。LUNA は授業の設計、教材の管理、テストやアンケートの実施といった学習支援機能と、教員と学生あるいは学生同士の意思疎通をおこなうコミュニケーション支援機能を提供している。LUNA の利用は、2011 年度の秋学期において、

1. 利用している科目数は学部開講科目の 42%程度、
2. 利用している教員数は常勤教員の 3-4 割、
3. 利用している学生数は全学生の 7 割程度、

となっている。本稿では、具体的な状況と、その活況の原因を報告する。

2 LUNA 利用の現況

利用科目数 図 1 はひと月の間に利用された授業を、各部局毎の百分率で示したデータである。どれだけの操作が、本当に利用していることになるかという議論はあるが、この統計ではページに何らかのアクセスがあった教科を取り出している。全体の総計では 35%の科目で利用があった事を示している。詳しく見ると、学部はだいたい 2010 年秋学期が 30%前後であったのが、2011 年春学期は 40%程度と上昇している。また、センターでは、情報教育の共通、言語、国際、教職、日本語教育での利用が高い。学部とセンターだけで集計すると、全開講科目のなかで使われている授業は、42%に昇る。一方、大学院研究科での利用は、経営戦略を除

いて、極めて低い。これは、クラスの学生数が少ないため、LUNA の利用をするまでもなく連絡、プリント配布が可能なたためと考えられる。

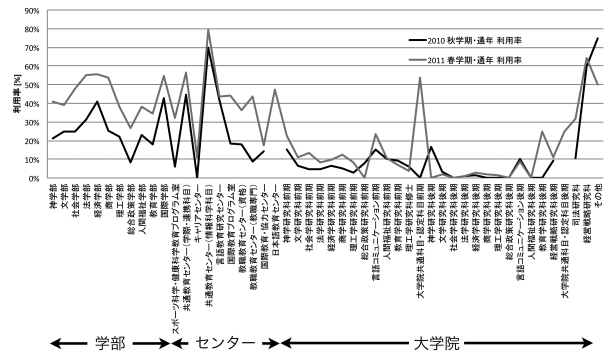


図 1: 利用授業科目の部局別集計。

利用教員数 図 2 はひと月の間に LUNA にアクセスした教員数の総計の推移を示したデータである。非常勤講師の全数把握が困難なため全体の何割の教員が利用しているかを明言することはできない。常勤教員は任期制も含めて、650 名程度在籍している。したがって、常勤教員だけでみると 3-4 割が使っていることになる。

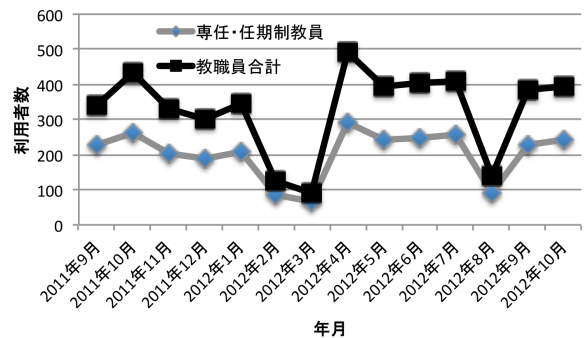


図 2: 教員利用者数の月別推移。

利用者数 図3はひと月の間にLUNAにアクセスした学生、教職員数の推移を示したデータである。学生の利用者が圧倒的で、供用開始した2010年9月から授業休みの期間を除いて右肩あがりに利用者が増えて来た事を示している。ピークとなった2011年7月では、17,000人を上回っており、7割程度の学生が利用していることになる。2011年秋学期はすこしリセットされたようだが、それでも昨年に比べると数割の利用増が始まっている。また、試験期間にアクセスが突然増える傾向も共通しています。

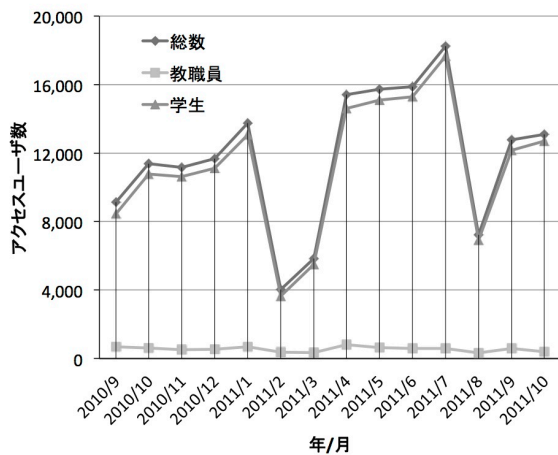


図3: 利用者数の月別推移。

利用形態は多様であるが、学生への緊急の連絡、例えば休講や資料の持参など、を確実に行うのに、LUNAのお知らせがもっとも便利な手段である。また、学生がとり逃した資料を再印刷して次週に手渡すのではなく、学生自身でLUNAからダウンロードし印刷するよう指示することは日常風景になっている。当初はダイアログの不備から課題提出、テストのエラーが頻発したが、学生も、同じインターフェースですべての科目で提供されると慣れてきて、隣の学生がちゃんと提出できているのに自分だけができていないとなると操作の自己修正が働くようになってきている。

3 LUNA 活況の原因分析と今後

この活況の原因にはいくつかあるようだが、中でも資産と体制が重要だったと見ている。

3.1 資産

関学では1998年に共有フォルダーと授業連絡ボードが導入されていた。共有フォルダーは、2011年10月現在で、総計633GBの教材が蓄積されている。詳しい統計は取られてないが、多くのクラスで利用されてい

た。一方、授業連絡ボードは、2009年春学期の段階で、科目数で363/6164で6.2%で、それほど多くなかった。しかし、情報の共通教育を中心に学生は利用の仕方になじんでいた。このように、コンテンツ資産はすでにあり、共通の授業連絡の利用にもなじんでいたため、より便利な市販のLMSに乗り換えるのに、それほど心理的な障壁は高くなかったことがうかがえる。

3.2 体制

LMSの導入形態では、小さな部局で試験的に導入して、その状況を参考にして全学へ広めていくという事例がよく報告されている。小部局から始めると微修正やヘルプ要員の育成などの利点があることが知られている。ところが、関学の場合は導入の経緯から、全学一斉に利用を始めたのが特徴である。興味や標準化と言う観点から多くの教員がLUNAへの乗り換え、新規利用を実行していただいた。また、高等教育推進センターではヘルプデスクや講習会を開き、立ち上げのサポートをおこなった。ヘルプデスクの利用の状況は図4の通りで、非常に多くの教職員が利用している。特に、授業の立ち上げにあたる10月、4月に相当数の教員より相談があることが分かる。

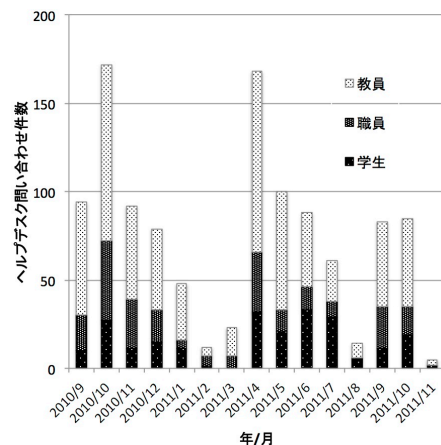


図4: ヘルプデスク利用件数の月毎の集計推移。

4 まとめ

LUNAは2010年供用開始から1年で、利用している科目数は学部開講科目の42%程度、利用している教員数は常勤教員の3-4割に上り、全学生の7割程度にまで普及している。これは、関学の教員が蓄えてきた資産の有効利用と、全学一斉導入にともなう体制整備によってなされたものと考えられる。